

平成28年度計量法特定計量器の試買調査

○指定製造事業者

【血圧計・体温計】

○家庭用特定計量器

【一般用体重計・調理用はかり】

報告書

平成30年3月

経済産業省 計量行政室

目次

1. 調査の目的	1
2. 調査内容	1
3. 調査結果の概要	8
【別添資料】不適合の疑いが確認された型式の詳細	13
【参考1】適用した技術基準及び試験・検査方法	32
【参考2】市場調査結果	37

1. 調査の目的

計量法（平成4年法律第51号）では、取引若しくは証明における計量に使用され、又は主として一般消費者の生活の用に供される計量器のうち、適正な計量の実施を確保するためにその構造又は器差に係る基準を定める必要があるものとして特定計量器を定めている。取引等に使用される特定計量器には、都道府県による検定に合格したことを証する公印（検定証印）が表示されている必要があるが、優れた品質管理能力を有する製造事業者は、経済産業大臣からの指定を受け、指定製造事業者となることによって、自社で技術基準への適合性を確認し、基準適合証印¹を表示することができる。

また、一般消費者の生活の用に供される体重計、調理用はかりなどの家庭用特定計量器は、製造事業者又は輸入事業者が自ら技術基準への適合性を確認し、いわゆる丸正マーク²を表示して販売しなければならない。

本事業では、これら事業者自らの責任で適合性確認を行っている特定計量器について、国内市場で流通している特定計量器（国内で製造販売されている製品又は海外で製造され、輸入販売されている製品）を無作為に購入し、検査を行うことによって、基準適合状況の実態を確認するとともに、不適合の疑いが確認された製品については、計量行政室からその内容について、製造事業者、輸入事業者等に対して説明し、これら事業者において適切な是正措置等を行うよう指導した。

結果の公表は、情報を広く公開することによって、類似の不適合の疑いがある製品の流通防止を図るなど、事業者における自主的な適正計量の確保に係る活動を促進するために行うものである。

2. 調査内容

（1）調査対象計量器及び型式の選定、購入

特定計量器のうち指定製造事業者が製造した「血圧計（電気式に限る。）」、「体温計（抵抗体温計に限る。）」、家庭用特定計量器のうち「一般用体重計」及び「調理用はかり」（いずれも電気式のデジタル表示のものに限る。）について表1のとおり選定した。

表1 調査対象計量器

計量器	対象事業者	型式数
特定計量器		
血圧計	指定製造事業者	15型式
体温計	指定製造事業者	15型式
家庭用特定計量器		
一般用体重計	国内製造事業者又は輸入事業者	20型式
調理用はかり	国内製造事業者又は輸入事業者	20型式

型式の選定、購入にあたっては、以下の点を配慮した。

購入した製品の一覧表を表2～5に示す。

¹ 基準適合証印



² 家庭用特定計量器基準適合表示（いわゆる丸正マーク）



(全計量器共通事項)

- ・小売店、インターネット、電話注文によって購入するが、電話注文は、小売店又はインターネットで購入できない場合とする。
- ・調査の精度を高めるために1型式あたり3台購入し、3台は異なる販売店から購入することを原則とする。

(血圧計)

- ・全指定製造事業者を対象とし、国内市場で一般的に流通している型式から購入する。
- ・上腕式、手首式の分類を踏まえ、幅広く選定する。

(体温計)

- ・全指定製造事業者を対象とし、国内市場で一般的に流通している型式から購入する。
- ・一般用、婦人用、実測式及び予測式の分類を踏まえ、幅広く選定する。

(家庭用特定計量器)

- ・ひょう量及び目量の分類を踏まえ、幅広く選定する。
- ・特定の製造事業者又は輸入事業者に偏らないように配慮して製品を選定する。ただし、選定時点で製造事業者又は輸入事業者が確認できないなどの場合、結果的に同一事業者から複数の型式を購入するケースがあり得る。
- ・過去に試買調査を行っていない事業者又は型式を優先して選定する。
- ・過去の試買調査の結果、不適合の疑いのあった型式を購入する場合、事業者による是正・改善が行われた後の型式を原則として購入する。ただし、購入時に製造年を識別することは困難であるため、事業者による改善前の製品を購入するケースがあり得る。

表2 血圧計購入一覧

No	商品名／型式／種類 ^{注)}	型式承認番号	計量範囲 (mmHg)	目量 (mmHg)	指定製造事業者名／指定番号 ／生産国
C01	手首式血圧計／HEM-6320T／手首式	Q158	0~299	1	オムロンヘルスケア(株)／282401 ／日本
C02	上腕式血圧計／HEM-7133／上腕式	Q139	0~299	1	OMRON DALIAN CO. , LTD ／28CN02／中国
C03	上腕式血圧計／HEM-7270C／上腕式	Q138	0~299	1	オムロンヘルスケア(株)／282401 ／日本
C04	上腕式血圧計／UA-787／上腕式	Q103	0~280	1	愛安德電子(深圳)有限公司 ／28CN09／中国
C05	血圧計／UA-1030T／	Q126	0~280	1	愛安德電子(深圳)有限公司 ／28CN09／中国
C06	血圧計／UB-351／手首式	Q121	0~280	1	愛安德電子(深圳)有限公司 ／28CN09／中国
C07	チズン電子血圧計／CH-650F／手首式	Q0920	0~280	1	CSJM／28CN10／中国
C08	チズン電子血圧計／CHD701／上腕式	Q1113	0~280	1	CSJM／28CN10／中国
C09	チズン電子血圧計／CH-453F／上腕式	Q128	0~280	1	CSJM／28CN10／中国
C10	上腕血圧計／EW-BU36／上腕式	Q1059	0~280	1	Panasonic Manufacturing(Beijing) Co. , Ltd.／28CN04／中国
C11	手首式血圧計／BM-103／手首式	Q157	0~300	1	Guangdong Transtek Medical Electronics Co. , Ltd／28CN12 ／中国
C12	上腕式血圧計／BM-101／手首式	Q1311	0~300	1	Guangdong Transtek Medical Electronics Co. , Ltd／28CN12 ／中国
C13	上腕式血圧計／BM-201／上腕式	Q1411	0~300	1	Guangdong Transtek Medical Electronics Co. , Ltd／28CN12 ／中国
C14	上腕式血圧計／DS-S10／上腕式	Q1416	3~300	1	PT.NSS INDONESIA／28ID01 ／インドネシア
C15	上腕式デジタル血圧計／WSK-1021／手首式	Q1219	3~300	1	蘇州尼世精密儀器有限公司 ／28CN11／中国

注) 種類は、上腕式又は手首式のいずれか

表3 体温計購入一覧

No	商品名／型式／種類 ^{注)}	型式承認番号	計量範囲 (℃)	目量 (℃)	指定製造事業者名／指定番号 ／生産国
D01	婦人用電子体温計 ／MC-683L／婦人・予測式	H149	32.00～42.00	0.01	OMD／08CN05／中国
D02	婦人用電子体温計 ／MC-652LC／婦人・予測式	H142	32.00～42.00	0.01	OMD／08CN05／中国
D03	電子体温計MC-680けんお んくん／MC-680／予測式	H154	32.0～42.0	0.1	OMD／08CN05／中国
D04	電子体温計MC-681けんお んくん／MC-681／予測式	H155	32.0～42.0	0.1	OMD／08CN05／中国
D05	仁丹電子体温計／MT1821J	H098	32.0～42.0	0.1	Onbo Electronics(Shenzhen)Co.,ltd／ 08CN06／中国
D06	テルモ電子体温計W525 ／ET-W525／婦人・予測式	H143	32.00～42.00	0.01	CSJM／08CN09／中国
D07	テルモ電子体温計P330 ／ET-P330／予測式	H139	32.0～42.0	0.1	CSJM／08CN09／中国
D08	テルモ電子体温計P330／ ET-C531／婦人・予測式	H1017	32.00～42.00	0.01	TMPH／08CN08／中国
D09	体温計UT-201BLE ／UT-201BLE／予測式	H141	32.0～42.0	0.1	愛安德電子（深圳）有限公司 ／08CN10／中国
D10	シチズン電子体温計 『CTE707』／CTE707 ／予測式	H153	32.0～42.0	0.1	CSJM／08CN09／中国
D11	やわらかタッチ体温計 ／TO-200／予測式	H152	32.0～42.9	0.1	VEGA TECHNOLOGIES INC. ／08CN07／中国
D12	電子体温計／TO-102	H1312	32.0～42.9	0.1	VEGA TECHNOLOGIES INC. ／08CN07／中国
D13	仁丹電子体温計MT1622J ／MT1622J／婦人	H082	32.00～42.99	0.01	Onbo Electronics(Shenzhen)Co.,ltd ／08CN06／中国
D14	キャラ温計3D JR新幹線 ／MT-F19-Y／予測式	H151	32.0～42.9	0.1	Vega Technologies Inc . ／08CN07／中国
D15	電子体温計／MT-219-BWC	H108	32.0～42.9	0.1	VEGA TECHNOLOGIES INC. ／08CN07／中国

注) 種類は、婦人用は「婦人」、予測式機能を有しているものは「予測式」と記載。
一般用及び実測式は無記載。

表4 一般用体重計購入一覧

No	商品名／型式	ひょう量 (kg)	目量 (g)	輸入事業者名
A01	デュアルタイプ体組成計 インナースキャンデュアル RD-902／RD-902	180	100(0～100kg) 200(100～180kg)	(株)タニタ ^{注)}
A02	インナースキャンデュアル RD-502／RD-502	150	50(0～100kg) 100(100～150kg)	(株)タニタ ^{注)}
A03	体重計 UC-352BLE ／UC-352BLE	150	100(10～100kg) 200(100～150kg)	(株)エー・アンド・デイ
A04	パーソナル体重計 UC-332シリーズ／UC-332	150	100(5～150kg)	(株)エー・アンド・デイ
A05	ボディスケール「ピエトラ イーティーアール」／BS-167	150	50(5～100kg) 100(100～150kg)	(株)ドリテック
A06	体重体組成計 ピエトラプラスイーティーアール／BS-243	150	50(5～100kg) 100(100～150kg)	(株)ドリテック
A07	エレモチーフ／MT-105	150	100(5～100kg) 200(100～150kg)	(株)マキノトレーディング
A08	デジタル体重計／HBK-T100-W	150	100(5～50kg) 200(50～100kg) 500(100～150kg)	(株) オーム電機
A09	体重体組成計／HB-K110-W	150	100(5～50kg) 200(50～100kg) 500(100～150kg)	(株) オーム電機
A10	ELSONIC コンパクト体組成計 ／EFC-WS602	150	200(5～150kg)	(株)ノジマ
A11	体組成バランス計 EW-FA71 ／EW-FA71	136	100(0～100kg) 200(100～136kg)	パナソニック(株)
A12	オムロン 体重体組成計 HBF-253W カラダスキャン ／HBF-253W	135	50(3～100kg) 100(100～135kg)	オムロンヘルスケア(株)
A13	カラダスキャン HBF-224 ／HBF-224	135	100(2～100kg) 200(100～135kg)	オムロンヘルスケア(株)
A14	ソーラー体重計／MA-630	136	100(3～100kg) 200(100～136kg)	(株)丸隆
A15	パーソナルミニスケール ／PS-130	130	100(3～100kg) 200(100～130kg)	協和工業(株)
A16	体組成計ヘルスメーター ／AHGS-1400	136	100(2.5～136kg)	(株)アトラス
A17	Polar Balance Scale／-	180	100(10～180kg)	(株)ポラール・エレクトロ・ジャパン
A18	ガラス体重体組成計 ／HCF-3C	150	200(0～100kg) 500(100～150kg)	(株)コンポジット
A19	SALUTE BH-2581 ／BH-2581	150	100(3～150kg)	(株)ハシモト
A20	魔女の体重計 BH-2403 ／BH-2403	150	200(3～150kg)	(株)ハシモト

注) 輸入事業者ではなく、国内製造事業者

表5 調理用はかり購入一覧

No	商品名及び型式	ひょう量 (kg)	目量 (g)	輸入事業者名
B01	洗えるクッキングスケール/KW-220	2	1(0~2000) 微量モード 0.1(0~200) 0.5(200~1000)	(株)タニタ
B02	デジタルクッキングスケール /KJ-110M	1	1	(株)タニタ
B03	洗えるクッキングスケール/KW-320	3	1(0~3000) 微量モード 0.1(0~300) 0.5(300~1500)	(株)タニタ
B04	デジタルスケール1kg/KS-171	1	1	(株)ドリテック
B05	デジタルスケール「クイニー」3kg /KS-355	3	0.1(2~300) 0.5(300~1500) 1(1500~3000)	(株)ドリテック
B06	時計付きデジタルキッチンスケール 3kg計/COK-S300	3	1(2~3000)	(株)オーム電機
B07	デジタルキッチンスケール2kg計 /COK-S200	2	1(2~2000)	(株)オーム電機
B08	fun to cook UH-3203シリーズ /UH-3203	3	1(0~3000) 微量モード 0.1(0~100)	(株)エー・アンド・デイ
B09	fun to cook UH-3202/UH-3202	3	1(0~3000) 微量モード 0.1(0~100)	(株)エー・アンド・デイ
B10	ラフィネ ガラストップデジタルス ケール2kg用/D-6227, D-6228	2	1	(株)b i g i u
B11	セパレートミー デジタルキッチン スケール2kg用D-13/D-13	2	1	(株)永泰産業
B12	キッチンスケールEK3280 /EK3820-2KG	2	1	(株)ニトリ
B13	オブティモホワイト/BC2000J3	2	1(2~2000) 微量モード 0.1(2~200) 0.5(200~500) 1(500~2000)	(株)グループセブジャ パン
B14	グリューセン キッチンスケール /GR-YHC1618	2	0.5(0.5~1000) 1(1000~2000)	(株)マキノトレーディ ング ^{注)}
B15	デジタルキッチンスケール ハッカ リン3キロロ/HKR-3G	3	0.5(0~1000) 1(1000~2000)	(株)カクセー
B16	ベジター デジタルキッチンスケール /DVK-30	3	1	下村工業(株)
B17	デジタルスケール 2kg/KS-252	2	1	(株)ドリテック
B18	デジタルキッチンスケール /DL-6338	2	1	貝印(株)
B19	BON BON HOME/KS-245	2	1(2~2000) 微量モード 0.1(2~200) 0.5(200~500) 1(500~2000)	(株)ドリテック
B20	デジタルキッチンスケール /HAC1348	2	0.1(2~200) 0.5(200~1000) 1(1000~2000)	(株)ハック

注) 平成28年10月6日に廃業。

（２）調査方法及び適合性確認

①調査方法

上記（１）で選定、購入した製品について、技術基準のうち、性能及び表示への適合状況を確認した。

製品の選定・購入、表示の適合状況の確認及び調査結果のとりまとめは、この事業の委託先である(株)タイム・エージェントが行い、性能の適合状況等の試験・検査の実施及び確認は、血圧計及び調理用はかりは国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター、抵抗体温計及び一般体重計は一般財団法人 日本品質保証機構 計量計測センターが実施した。

②調査実施期間

平成 28 年 6 月 29 日～平成 29 年 2 月 28 日

③適合性確認の方法及び基準

性能検査及びその基準は、各計量器の技術基準である関係省令等（省令に引用されている該当 J I S の規定を含む。）のうち次の事項について適合性を確認した。適合性の判断基準及びその試験・検査方法を【参考 1】に示す。

【血圧計・抵抗体温計】

①性能基準

- ・技術基準である特定計量器検定検査規則（平成5年通商産業省令第70号。以下「検則」という。）の検定の合否判定基準である検定公差³及び個々に定める性能の検定公差等への適合状況。この検査に適合しない場合は、使用中検査⁴の合否判定基準である使用公差等への適合状況。

②表示基準

- ・技術基準である指定製造事業者の指定等に関する省令（平成5年通商産業省令第77号）の基準適合証印等に係る表示規定への適合状況。
- ・検則の特定計量器に係る表示規定への適合状況。

【一般用体重計・調理用はかり】

①性能基準

- ・技術基準である計量法施行規則（平成5年通商産業省令第69号。以下「施行規則」という。）の器差への適合状況。
- ・零復帰機能を有するはかりは、施行規則の零復帰度への適合状況。

②表示基準

- ・技術基準である施行規則の丸正マーク等の表示の方法への適合状況。
- ・施行規則の製品、個装箱及び取扱説明書への表示への適合状況。

³ 検定公差：都道府県の検定又は指定製造事業者が自社検定を実施する際、合格の判断基準となる器差（検査を行う計量器が示す計量値と基準器との値との差。一般的には誤差ともいう。）の許容差。

⁴ 使用中検査：計量器の使用中に許容される器差の許容差。

3. 調査結果の概要

(1) 指定製造事業者

①試買調査結果

血圧計及び抵抗体温計は、各15型式（全90台）が全て、検定公差の合否判定基準に適合していた。

また、表示基準にも全て適合していた。調査結果概要を表6に示す。

表6 血圧計及び抵抗体温計調査結果概要

特定計量器	調査型式数	性能基準不適合の疑いがある型式数		表示基準不適合の疑いがある型式数
		検定合否判定基準	使用中検査合否判定基準	
血圧計	15型式 (45台)	0型式 (0台)	0型式 (0台)	0型式 (0台)
抵抗体温計	15型式 (45台)	0型式 (0台)	0型式 (0台)	0型式 (0台)

②平成 26 年度の調査結果との比較

試買調査は、平成 26 年度から本格的に実施しており、血圧計における過去の調査結果との比較を表 7、抵抗体温計における過去の調査結果との比較を表 8 に示す。

表 7 血圧計における過去の調査結果との比較

調査 年度	型式数	性能基準不適合の疑い			表示基準不適合の 疑いのある型式数
		検定合否判定基準		使用中検査合否 判定基準型式数	
		型式数	割合		
H26	20 (60台)	1 (1台)	5.0% (1.7%)	0 (0台)	0 (0台)
H28	15 (45台)	0 (0台)	0.0% (0.0%)	0 (0台)	0 (0台)

表 8 抵抗体温計における過去の調査結果との比較

調査 年度	型式数	性能基準不適合の疑い		使用中検査合否 判定基準型式数	表示基準不適合の 疑いのある型式数
		検定合否判定基準			
		型式数	割合		
H26	20 (60台)	0 (0台)	0.0% (0.0%)	0 (0台)	0 (0台)
H28	15 (45台)	0 (0台)	0.0% (0.0%)	0 (0台)	0 (0台)

(性能)

血圧計及び抵抗体温計は検定合否判定基準に全型式が適合していた。

なお、平成 26 年度に不適合の疑いが確認された型式については、販売が終了しており今回の調査対象より除外した。

また、全ての型式において、器差が検定の合否判定基準以内の結果であったことから全体的には良好な品質管理状態にあるといえる。

(表示)

いずれも表示は全型式において適合していた。国内外ともに適正な管理を実施していることが確認された。

(2) 家庭用特定計量器

①試買調査結果

施行規則で定める技術上の基準である日本工業規格 B 7613 家庭用はかり—一般用体重計、乳幼児用体重計及び調理用はかり（以下、「JIS B 7613」）規定する表示の全項目及び計量法施行規則第22条の表示（丸正マーク）の有無及び適合状況を調査した。

なお、JIS B 7613 は、2008 年版と 2015 年版があり、市場にはそれぞれに適合した計量器が混在していると考えられるため、主に 2008 年版に適合しているかを確認した。

体重計及び調理用はかりの調査結果概要を表9に示す。

(体重計)

- ・20型式中、性能基準は8型式（全60台中11台）、表示基準は8型式（全60台中24台）で、不適合の疑いが確認された（表示基準及び性能基準の両方に不適合の疑いのある型式有）。
- ・性能基準のうち零復帰機能がある体重計は、今回の調査ではなかった。
- ・荷重の負荷によって載せ台表面がたわむ型式が確認された。これらは、少なからず不適合の疑いとなる要因と考えられる。また、載せ台面積が小さい、又は湾曲している関係から荷重が安定しないなどの構造上の要因によって不適合の疑いとなる型式も確認された。
- ・表記基準の不適合の疑いは、製品の表示は6型式、個装箱の表示は5型式、取扱い説明書の表示は7型式で不適合の疑いがあった。

(調理用はかり)

- ・20型式中、性能基準は4型式（全60台中5台）、表示基準は6型式（全60台中18台）で、不適合の疑いが確認された（表示基準及び性能基準の両方に不適合の疑いのある型式有）。
- ・性能基準のうち零復帰機能は全型式で適合していた。
- ・性能基準において不適合の疑いのある型式及び台数は、一部にとどまっており、性能については比較的良好な結果にあるといえる。
- ・表記基準の不適合の疑いは、製品の表示は4型式、取扱い説明書の表示は2型式で不適合の疑いがあり、個装箱の不適合は無かった。
- ・今回の調査では4型式で計量単位の切替え機能が確認されたが、“計算値”や“換算値”等の表示が見受けられ基準に適合していた。なおこれら質量以外の表示については、一般用体重計及び調理用はかりともに平成27年8月20日に改正されたJIS B 7613:2015では、目安（計算、推計などを含む）である旨の表記が必要である⁵。

表9 家庭用特定計量器調査結果概要

家庭用特定計量器	調査型式数	性能基準不適合の 疑いのある型式数	表示基準不適合の 疑いのある型式数
一般用体重計	20型式 (60台)	8型式 (11台/60台)	8型式 (24台/60台)
調理用はかり	20型式 (60台)	4型式 (5台/60台)	6型式 (18台/75台)

不適合の疑いがあるとされた製品の一覧表を表10及び表11に示す。計量行政室からこれらの輸入事業者、製造事業者等に対して、調査結果について説明を行い、また、不適合の疑いのある事項及び不適合の疑いには該当しなかったものの改善した方が望ましい事項について指導を行った。指導を行った事業者からは不適合事項が疑われた事項の原因の調査、その調査結果に基づく検査方法及び検査体制等の是正に関する報告又は改善した方が望ましい事項の改善に関する報告の提出を受けている。

⁵平成28年12月31日までは猶予期間がある。

表10 一般用体重計不適合の疑いのある型式一覧

No	商品名／型式	ひょう量 (kg)	目量 (g)	不適合の疑いのある 項目 ^{注)}
A03	体重計 UC-352BLE ／UC-352BLE	150	100(10～100kg) 200(100～150kg)	表示
A05	ボディースケール「ピエトラ イ ーティアーナル」 ／BS-167	150	50(5～100kg) 100(100～150kg)	器差 (1台)
A08	デジタル体重計 ／HBK-T100	150	100(5～50kg) 200(50～100kg) 500(100～150kg)	器差 (1台) 表示
A14	ソーラー体重計 ／MA-630	136	100(3～100kg) 200(100～136kg)	器差 (1台) 表示
A15	パーソナルミニスケール ／PS-130	130	100(3～100kg) 200(100～130kg)	器差 (2台) 表示
A16	体組成計ヘルスマーター ／AHGS-1400	136	100(2.5～136kg)	器差 (1台) 表示
A17	Polar Balance Scale ／-	180	100(10～180kg)	器差 (2台) 表示 丸正マーク無 非法定計量単位表示
A18	ガラス体重体組成計 ／HCF-3C	150	200(0～100kg) 500(100～150kg)	器差 (1台) 表示
A19	SALUTE BH-2581 ／BH-2581	150	100(3～150kg)	器差 (2台) 表示
A20	魔女の体重計 BH-2403 ／BH-2403	150	200(3～150kg)	表示

注) 不適合の疑いのある項目の欄で台数の記載がないものは、3台とも不適合の疑いのある型式である。

表11 調理用ばかり不適合の疑いのある型式一覧

No	商品名／型式	ひょう量 (kg)	目量(g)	不適合の疑いの ある項目
B03	洗えるクッキングスケール ／KW-320	3	1(0～3000) 微量モード 0.1(0～300) 0.5(300～1500)	器差 (2台)
B05	デジタルスケール「クイニー」 3kg ／KS-355	3	0.1(2～300) 0.5(300～1500) 1(1500～3000)	器差 (1台)
B10	ラフィネ ガラストップデジ タルスケール2kg用 ／D-6227 , D-6228	2	1	器差 (1台) 表示
B11	セパレートミー デジタルキ ッチンスケール2kg用D-13 ／D-13	2	1	器差 (1台) 表示
B16	ベジター デジタルキッチン スケール ／DVK-30	3	1	表示
B17	デジタルスケール 2kg ／KS-252	2	1	表示
B19	BON BON HOME ／KS-245	2	1(2～2000) 微量モード 0.1(2～200) 0.5(200～500) 1(500～2000)	表示
B20	デジタルキッチンスケール ／HAC1348	2	0.1(0～200) 0.5(200～1000) 1(1000～2000)	表示

注) 不適合の疑いのある項目の欄で表示に台数の記載がないものは3台とも不適合の疑いのある型式である。

②過去2年間の調査結果との比較

家庭用計量器の試買調査は、平成25年度から本格的に実施しており、これまでの調査結果との比較は次のとおり。

【一般用体重計】

これまでの調査結果との比較を表 12 に示す。なお、今回の調査においては、過去 2 年間で比較して調査対象となる型式が市場から減少していることから、調査対象型式を平成 27 年度と同数の型式とした。

表 12 過去 2 年間の調査結果との比較（一般用体重計）

調査 年度	型式数	性能基準不適合の疑い		表示基準不適合の疑い	
		型式数	割合	型式数	割合
H26	30 (88台)	15 (26台)	50.0% (29.5%)	12 (36台)	40.0% (40.9%)
H27	20 (60台)	9 (15台)	45.0% (25.0%)	9 (25台)	45.0% (41.7%)
H28	20 (60台)	8 (11台)	40.0% (18.3%)	8 (24台)	40.0% (40.0%)

(性能)

過去2年間と比較して、今回、性能基準不適合の疑いのある型式数及び台数ともにその割合は、僅かではあるが減少した。

性能については改善の傾向にあるが、依然として性能基準の倍以上の器差となった製品も見受けられ、今後の製品設計・品質管理方法の改善が望まれる。

(表示)

過去2年間と比較して、表示基準不適合の疑いがある型式数は減少したが、割合でみると横ばい傾向であった。

丸正マークが存在しない、非法定計量単位が表示される型式が確認された。

【調理用はかり】

これまでの調査結果との比較を表 13 に示す。なお、今回の調査においては、過去 2 年間と比較して調査対象となる型式が市場から減少していることから、調査対象型式を平成 27 年度より調査対象型式を 5 型式減らした。

表 13 過去 2 年間の調査結果との比較（調理用はかり）

調査 年度	型式数	性能基準不適合の疑い		表示基準不適合の疑い	
		型式数	割合	型式数	割合
H26	28 (84台)	13 (23台)	46.4% (27.4%)	14 (41台)	50.0% (48.8%)
H27	25 (75台)	4 (5台)	16.0% (6.7%)	8 (24台)	32.0% (32.0%)
H28	20 (60台)	4 (7台)	20.0% (11.7%)	6 (18台)	30.0% (30.0%)

※平成26年度は、30型式調査することを目標としていたが、結果として28型式となった。

(性能)

過去2年間と比較して、欠陥があると考えられるものを除くと器差の許容差の2倍を超過するものは無かった。

(表示)

過去2年間と比較して、今回、不適合の疑いのある型式数及び台数ともに減少した。今回の調査では、個装箱の表示が全て適合していた。

【別添資料】不適合の疑いが確認された型式の詳細

不適合の疑いが確認された内容については、この委託事業において調査時に購入した製品について確認した結果であり、一型式につき3台を無作為に購入した結果である（サンプル調査）。

1. 一般用体重計

No. A 0 3

- | | |
|-------------|---|
| (1) 商品名及び型式 | UC-352BLE |
| (2) ひょう量 | 150kg |
| (3) 目量 | 0.1kg (10kg~100kg)
0.2kg (100kg~150kg) |
| (4) 測定の下限值 | 10kg |
| (5) 輸入事業者名 | 株式会社エー・アンド・デイ |
| (6) 生産国 | 中国 |

○不適合の疑いの概要（表示）

- ①製品及び個装箱の表示が実物と異なっていた。
・測定範囲の下限值（個装箱も同じ）

（参考）製品の外観



No. A 0 5

- (1) 商品名及び型式 ピエトラーティーアール BS-167PK
(2) ひょう量 150kg
(3) 目量 0.05kg (5kg~100kg)
0.1kg (100kg~150kg)
(4) 測定の下限值 5kg
(5) 輸入事業者名 株式会社ドリテック
(6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要 (性能：器差 1 台)

①3 台中 1 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (kg)	器差 (kg)	許容差 (kg)
	A05-1	
40	-0.130	±0.10
75	-0.130	±0.10
115	適合	±0.3
150	適合	±0.3

(参考) 製品の外観



No.A 0 8

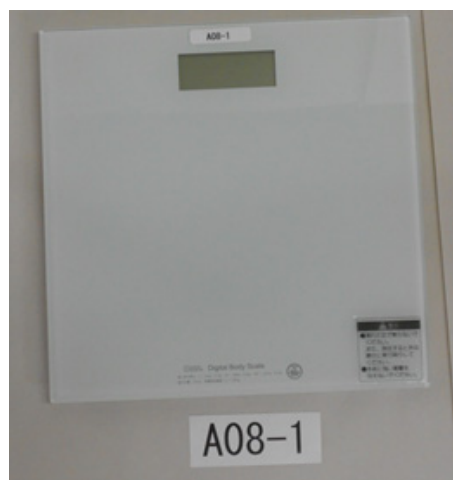
- (1) 商品名及び型式 デジタル体重計 HBK-T100-W
(2) ひょう量 150kg
(3) 目量 0.1kg (5kg~50kg)
0.2kg (50kg~100kg)
0.5kg (100kg~150kg)
(4) 測定の下限值 5kg
(5) 輸入事業者名 株式会社オーム電機
(6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要 (器差 1 台)

①3 台中 1 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (kg)	器差 (kg)	許容差 (kg)
	A08-3	
40	+0.26	±0.2
75	+0.52	±0.4
115	適合	±1.5
150	適合	±1.5

(参考) 製品の外観



No.A 1 4

- (1) 商品名及び型式 ソーラー体重体組成計 MA-630
 (2) ひょう量 136kg
 (3) 目量 100g (3kg から 100kg まで)
 200g (100kg から 136kg まで)
 (4) 測定の下限值 3kg
 (5) 輸入事業者名 株式会社丸隆
 (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（器差 1 台、表示）

①3 台中 1 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (kg)	器差 (kg)	許容差 (kg)
	A14-1	
35	適合	±0.2
65	適合	±0.2
105	適合	±0.3
136	-0.36	±0.3

②製品に次の表示が無かった。

- ・製造番号

③製品、個装箱、取扱説明書に次の表示が、誤っていた。

- ・目量（最小表示）

（参考）製品の外観



No.A 1 5

- (1) 商品名及び型式 パーソナルミニスケール PS-130
 (2) ひょう量 130kg
 (3) 目量 100g (3kg から 100kg)
 200g (100kg から 130kg)
 (4) 測定の下限值 3kg
 (5) 輸入事業者名 協和工業株式会社
 (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（性能：器差 2 台、表示）

①3 台中 2 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (kg)	器差 (kg)		許容差 (kg)
	A15-2	A15-3	
35	+0.32	適合	±0.2
70	+0.40	適合	±0.3
105	適合	+0.42	±0.3
130	+0.72	+0.54	±0.3

②製品、個装箱に次の表示が無かった。

- ・定格電圧及び/又は電池の種類及び個数
- ・目量（最小表示）が実際と異なる

③取扱説明書に次の表示が無かった。

- ・ひょう量及び目量（最小表示）
- ・計量精度

（参考）製品の外観



No. A 1 6

- (1) 商品名及び型式 体組成計ヘルスマーター AHGS-1400
(2) ひょう量 136kg
(3) 目量 100g
(4) 測定の下限值 2.5kg
(5) 輸入事業者名 株式会社アトラス
(6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（性能：器差 1 台、表示）

①3 台中 1 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (kg)	器差 (kg)	許容差 (kg)
	A16-2	
35	+0.24	±0.2
65	+0.36	±0.2
105	+0.40	±0.3
136	+0.38	±0.3

②製品に次の表示が無かった。

- ・製造番号
- ・測定範囲の下限（個装箱，取扱説明書も同じ）

（参考）製品の外観



No.A 1 7

- (1) 商品名及び型式 Polar Balance Scale
 (2) ひょう量 180kg
 (3) 目量 100g
 (4) 測定の下限值 10kg
 (5) 輸入事業者名 ポラール・エレクトロ・ジャパン
 (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（器差 2 台、表示、丸正マーク、非法定計量単位表示）

①3 台中 2 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (kg)	器差 (kg)		許容差 (kg)
	A17-2	A17-3	
45	適合	適合	±0.2
90	適合	適合	±0.2
135	適合	適合	±0.3
180	-0.50	-0.40	±0.3

②製品に次の表示が無かった。

- ・ ひょう量及び目量（又は最小表示）
- ・ 測定範囲の下限
- ・ 定格電圧及び/又は電池の種類及び個数

③取扱説明書に次の表示が無かった。

- ・ 住所
- ・ 主要部の名称及び機能
- ・ 附属品の名称、数量
- ・ 使用方法、使用上の安全及び保管上の注意事項、性能及び性能維持に関する事項
- ・ 修理及び消費者相談窓口に関する事項

④丸正マークの表示が無かった。

⑤製品に非法定計量単位であるポンド (lb) の表示があった。

（参考）製品の外観



No.A 1 8

- (1) 商品名及び型式 ガラス体重体組成計 HCF-3C
(2) ひょう量 150kg
(3) 目量 200g (0~100kg)
 500g (100kg~150kg)
(4) 測定の下限值 0kg
(5) 輸入事業者名 株式会社コンボジット
(6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（性能：器差 1 台、表示）

①3 台中 1 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (kg)	器差 (kg)	許容差 (kg)
	A18-2	
40	+0.56	±0.4
75	+0.84	±0.4
115	適合	±1.5
150	適合	±1.5

②個装箱に次の表示が無かった。

- ・ 輸入事業者名又は輸入事業者名及び住所
- ・ 製品の名称（1 台のみ）
- ・ ひょう量及び目量（又は最小表示）

③取扱説明書に次の表示が無かった。

- ・ 輸入着業者名又は輸入事業者名及び住所
- ・ 測定範囲の下限值（実際の表示と異なる）
- ・ 修理及び消費者相談窓口に関する事項

（参考）製品の外観



No.A 1 9

- (1) 商品名及び型式 SALUTE BH-2581
 (2) ひょう量 150kg
 (3) 目量 100g
 (4) 測定の下限值 3kg
 (5) 輸入事業者名 株式会社ハシモト
 (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（性能：器差 2 台、表示）

①3 台中 2 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (kg)	器差 (kg)		許容差 (kg)
	A19-1	A19-2	
40	適合	適合	±0.2
75	+0.39	適合	±0.2
115	+0.64	適合	±0.3
150	+0.80	-0.32	±0.3

②製品に次の表示が無かった。

- ・分離する表示装置の識別番号

③取扱説明書に次の表示が無かった。

- ・主要部分の名称及び機能

（参考）製品の外観



No.A 2 0

- (1) 商品名及び型式 魔女の体重計 BH-2403
- (2) ひょう量 150kg
- (3) 目量 200g
- (4) 測定の下限值 3kg
- (5) 輸入事業者名 株式会社ハシモト
- (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（表示 1 台）

①取扱説明書に次の表示が無かった。

- ・ 主要部の名称及び機能

（参考）製品の外観



2. 調理用ばかり

No.B 0 3

- (1) 商品名及び型式 洗えるクッキングスケール KW-320
 (2) ひょう量 3kg
 (3) 目量 1g
 0.1g (0~300g)
 0.5g (300~1500g)
 (4) 測定の下限值 0g
 (5) 輸入事業者名 株式会社タニタ
 (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（性能：器差 2 台，器差（目量切替え）3 台）

①3 台中 2 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (g)	器差 (g)				許容差 (g)
	B03-2		B03-3		
	行き	帰り	行き	帰り	
0	適合	適合	適合	適合	±2
750	適合	適合	適合	適合	±2
1500	適合	適合	適合	適合	±3
2250	適合	適合	適合	適合	±3
3000	-4.0		-4.0		±3

② 3 台中 3 台において次のとおり、手動による目量切り替え後の器差が不適合であった。

試験箇所 (g)	器差 (g)						許容差 (g)
	B03-1		B03-2		B03-3		
	行き	帰り	行き	帰り	行き	帰り	
0	適合	適合	適合	適合	適合	適合	±0.2
375	適合	適合	適合	適合	適合	適合	±1.0
750	適合	適合	適合	適合	適合	適合	±1.5
1125	適合	適合	適合	-2.00	適合	-2.00	±1.5
1500	-2.00		-2.30		-2.00		±1.5

(参考) 製品の外観



No.B 0 5

- (1) 商品名及び型式 デジタルスケール「クイニー」 3kg KS-355
- (2) ひょう量 3000g
- (3) 目量 0.1g (2～300g)
0.5g (300～1500g)
1g (1500～3000g)
- (4) 測定の下限值 2g
- (5) 輸入事業者名 株式会社ドリテック
- (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（性能：器差 1 台）

①3 台中 1 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (g)	器差 (g)		許容差 (g)
	B05-2		
	行き	帰り	
0	適合	適合	±0.2
750	適合	適合	±1.0
1500	+2.00	+2.00	±1.5
2250	適合	適合	±3
3000	+4.0		±3

(参考) 製品の外観



No.B 1 0

- (1) 商品名及び型式 ラフィネ ガラストップデジタルスケール 2kg 用
D-6227/D-6228
- (2) ひょう量 2000g
- (3) 目量 1g
- (4) 測定の下限值 0g
- (5) 輸入事業者名 株式会社 b i g i u
- (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（性能：器差 1 台、表示）

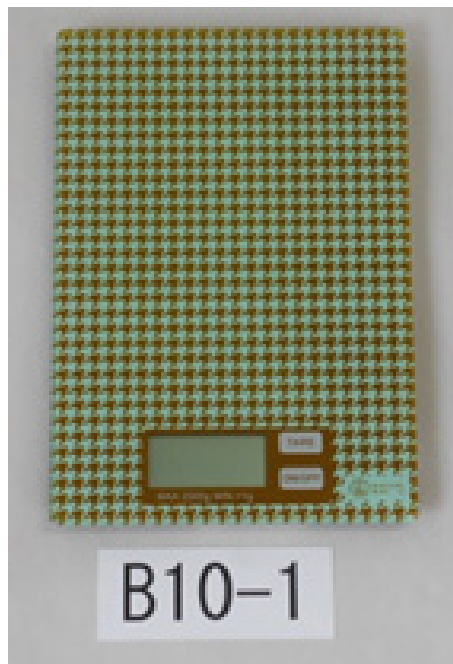
①3 台中 1 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (g)	器差 (g)		許容差 (g)
	B10-2		
	行き	帰り	
0	適合	適合	±2
500	適合	-2.6	±2
1000	適合	適合	±3
1500	適合	-3.4	±3
2000	-3.2		±3

②取扱説明書に次の表示が無かった。

- ・主要部の名称及び機能

(参考) 製品の外観



No.B 1 1

- (1) 商品名及び型式 セパレートミー デジタルキッチンスケール 2kg 用 D-13
 (2) ひょう量 2000g
 (3) 目量 1g
 (4) 測定の下限值 0g
 (5) 輸入事業者名 株式会社永泰産業
 (6) 生産国 中国

○不適合の疑いの概要（性能：器差 1 台、表示）

①3 台中 1 台において次のとおり、器差が不適合であった。

試験箇所 (g)	器差 (g)		許容差 (g)
	B11-2		
	行き	帰り	
0	適合	適合	±2
500	+19.2	+19.0	±2
1000	+38.2	+38.0	±3
1500	+57.4	+57.2	±3
2000	+74.0※		±3

※ひょう量 1927g にて確認

②取扱説明書に次の表示が無かった。

- ・主要部の名称及び機能

(参考) 製品の外観



No.B 1 6

- | | |
|-------------|--------------------------|
| (1) 商品名及び型式 | ベジター デジタルキッチンスケール DVK-30 |
| (2) ひょう量 | 3kg |
| (3) 目量 | 1g |
| (4) 測定の下限值 | 0g |
| (5) 輸入事業者名 | 下村工業株式会社 |
| (6) 生産国 | 中国 |

○不適合の疑いの概要（表示）

①製品本体に次の表示が無かった。

- ・製造事業者名又は輸入事業者名
- ・定格電圧及び/又は電池の種類及び個数

（参考）製品の外観



No.B 1 7

- | | |
|-------------|---------------------|
| (1) 商品名及び型式 | デジタルスケール 2kg KS-252 |
| (2) ひょう量 | 2000g |
| (3) 目量 | 1g |
| (4) 測定の下限值 | 0g |
| (5) 輸入事業者名 | 株式会社ドリテック |
| (6) 生産国 | 中国 |

○不適合の疑いの概要（表示）

①製品本体に次の表示が異なった。

- ・測定範囲の下限值が、表面（0g）と裏面（1g）で異なる。

（参考）製品の外観



No.B 1 9

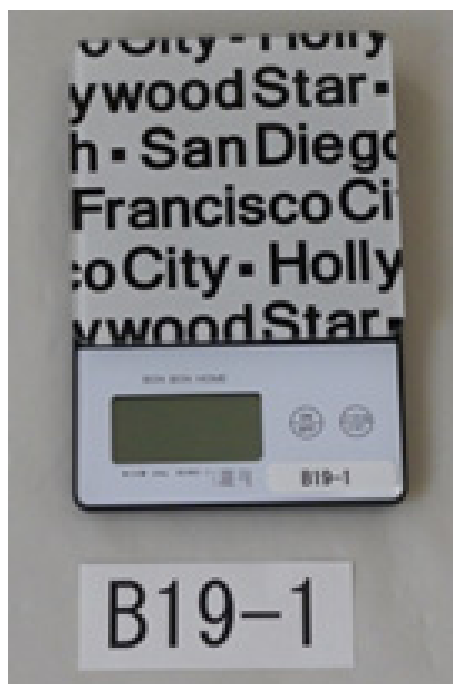
(1) 商品名及び型式	BON BON HOME デジタルスケール 2kg KS-245
(2) ひょう量	2000g
(3) 目量	1g
	0.1g (2~200g)
	0.5g (200~500g)
	1g (500~2000g)
(4) 測定の下限值	2g
(5) 輸入事業者名	株式会社ドリテック
(6) 生産国	中国

○不適合の疑いの概要（表示）

①製品本体に次の表示が異なった。

- ・計量範囲（本体の表示は 1000g までになっていた。）

（参考）製品の外観



No.B 2 0

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| (1) 商品名及び型式 | デジタルキッチンスケール | HAC1348 |
| (2) ひょう量 | 2000g | |
| (3) 目量 | 0.1g | (0~200g) |
| | 0.5g | (200~1000g) |
| | 1g | (1000~2000g) |
| (4) 測定の下限值 | 1g | |
| (5) 輸入事業者名 | 株式会社ハック | |
| (6) 生産国 | 中国 | |

○不適合の疑いの概要（表示）

①製品に次の表示が無かった。

- ・製品の名称及び形式
- ・ひょう量及び目量が個装箱の表示と異なる
- ・測定範囲の下限值が個装箱の表示と異なる

（参考）製品の外観



【参考1】適用した技術基準及び試験・検査方法

今回の調査に適用した技術基準である関係省令等（省令に引用されている該当 J I S を含む。）は次のとおり。

1. 血圧計

（1）性能

①検定公差

特定計量器検定検査規則（平成 5 年通商産業省令第 70 号。以下「検則」という。）第 564 条（検定公差）に規定されている日本工業規格 **JIS T1115(2005)非観血式電子血圧計 附属書 1（規定）計量法による電気式アネロイド型血圧計**（以下「**JIS T1115 附属書 1**」という。）の **5. 検定公差**における適合状況を確認した。血圧計の検定公差及び使用公差は（参考 1—表 1）のとおりである。

（参考 1—表 1）血圧計の検定公差及び使用公差

	検定公差	使用公差
許容差	±3mmHg	±6mmHg

○試験・検査方法

検則第 573 条 (**JIS T1115 附属書 1 4.1 カフ内圧力表示の器差の試験方法**) に基づき、実施した。具体的試験方法は次のとおり。なお、使用公差を確認する試験方法は、検則第 577 条に規定されているが、検定公差と同じ試験方法である。

4.1 カフ内圧力表示の器差の試験方法

4.1.1 試験装置

- a) カフ容量相当の剛性容器
- b) 圧力基準器
- c) 圧力発生装置
- d) T 字継手及びホース

4.1.2 手順

- a) カフを剛性容器 [4.1.1 a)] に置き換える。圧力基準器 [4.1.1 b)] を T 字継手とホース [4.1.1 d)] を用いて、空気系回路に接続する。必要な場合、電気式アネロイド型血圧計を受検モードにした後、他の T 字継手を用いて圧力発生装置 [4.1.1 c)] を接続する。
- b) 試験は、計量範囲を 50 mmHg の圧力間隔ごとに加圧・減圧時に行う。
- c) 試験は 2 回行い、加圧・減圧時各々の器差の 2 回の平均値により判定する。

使用した試験機器

名称	型番	メーカー
圧力標準器 ^注 (圧力基準器)	MT210F	横河電機株式会社
圧力発生装置	MC100	横河電機株式会社
サージタンク (剛性容器)	500 mL	—
	100 mL	—

注) JIS では、圧力基準器となっているが、型式承認試験で使用している圧力標準器を使用。

（2）表示

①指定省令への適合状況

技術基準である指定製造事業者の指定等に関する省令（平成 5 年通商産業省令第 77 号）第 8 条の基準適合証印等次の技術基準への適合状況を製品の目視によって確認した。

（表示）

第 8 条 基準適合証印は打ち込み印、押し込み印、すり付印又は焼き印により、次の各号に定めるところにより付するものとする。この場合において基準適合証印には、法第 16 条第 1 項第 2 号 ロの指定の際経済産業大臣が指定した番号を基準適合証印に隣接した箇所に表示するものとする。

一 基準適合証印の形状は次のとおりとする。



二 (略)

- 2 基準適合証印は、法第 76 条第 1 項の承認の際、特定計量器に封印をすべき箇所を国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下「研究所」という。）が示した場合にあっては、当該封印をするための金属片その他の物体に付するものとする。
- 3 基準適合証印は、前項の箇所に加え特定計量器の本体の通常の使用状態において見やすく、かつ、消滅しにくい部分に付さなければならない。ただし、前項の箇所が特定計量器の通常の使用状態において見やすく、かつ、消滅しにくい部分である場合は、この限りでない。
- 4 前 3 項の規定にかかわらず、基準適合証印を付す方法、基準適合証印の大きさ及び基準適合証印を付す特定計量器の部分が、適切でないと研究所が認める場合にあっては、研究所が個々に定めることができる。

②検則の特定計量器に係る表示基準への適合状況

検則第 7～8 条及び第 550 条（JIS T1115 附属書 1 3.1 表記）への適合状況について製品を目視によって確認した。

（表記等）

- 第 7 条 特定計量器の表記及び目盛標識（以下「表記等」という。）は、容易に消滅するもの、不鮮明なもの又は誤認のおそれがあるものであってはならない。
- 2 特定計量器の表記等には、誤記があってはならない。
 - 3 特定計量器には、その見やすい箇所に、次の事項が表記されていなければならない。
 - 一 当該特定計量器の製造事業者名、当該製造事業者の登録商標（商標法（昭和 34 年法律第 127 号）第 2 条第 5 項の登録商標をいう。）又は様式第 6 により経済産業大臣に届け出た記号
 - 二 当該特定計量器の製造年
 - 三 製造番号
 - 4 前項第 2 号の事項の表記にあっては、型式承認表示を付した年をもってこれに代えることができる。
 - 5 (略)
 - 6 特定計量器の表示機構には、その計量値の計量単位又はその記号が表記されていなければならない。

（計量単位）

- 第 8 条 特定計量器には、法定計量単位並びに計量単位規則（平成 4 年通商産業省令第 80 号。以下「単位規則」という。）第 1 条 に規定する計量単位（以下「法定計量単位等」という。）以外の計量単位による表記等があってはならない。
- 2 特定計量器に表記されている法定計量単位等の記号は、単位規則第 2 条 に定めるものを標準とするものでなければならない。

（電気式アネロイド型血圧計の表記）

第 550 条

JIS T1115 附属書 1

3.1 表記 電気式アネロイド型血圧計には見やすい箇所に、次の事項が表記されていなければならない。

- a) 定格電圧及び電源の種類

b) 計量範囲及び目量

2. 家庭用特定計量器

(1) 性能

①器差

計量法施行規則（平成 5 年通商産業省令第 69 号。以下「施行規則」という。）第 20 条に規定されている日本工業規格 **JIS B7613(2008)**家庭用はかり—一般用体重計，乳幼児用体重計及び調理用はかり（以下「**JIS B7613**」という。）の **4.2 器差**における表 12 への適合状況を確認した。今回対象となっている計量器の許容差は（参考 1—表 3）のとおり。

（参考 1—表 3） 器差に関する許容差

体重計の器差の許容差

計量範囲	ひょう量の 1/2 以下の場合	ひょう量の 1/2 を超える場合
許容差	±2 目量	±3 目量

調理用はかりの器差の許容差

計量範囲	ひょう量の 1/4 以下の場合	ひょう量の 1/4 を超える場合
許容差	±2 目量	±3 目量

②零復帰度

零復帰度を有するはかり（今回の調査では調理用はかり）は、施行規則第 20 条（**JIS B7613 4.3 零復帰度**）への適合状況を確認した。調理用はかりの基準は次のとおり。
荷重前後の零点の差が±2 目量を超えてはならない。

○試験・検査方法

施行規則第 20 条（**JIS B7613 6.2.1 器差試験**）に基づき（参考 1—表 3）への適合性を確認した。確認した方法は次のとおり。なお、試験・検査の試験条件は、**JIS B7613** の **6.1 試験条件**に従って実施した。試験に使用した分銅は（参考 1—表 4）のとおり。

6.1 試験条件

6.1.1 標準状態

試験環境の標準状態は、次による。

a) 温度 23±5 °C

b) 相対湿度²⁾ (50±20) %

注 ²⁾相対湿度は、作動に電源を必要とする家庭用はかりの試験の場合に限って適用する。

6.1.2 試験器具

器差の測定に用いる器具は、次による。

a) 分銅 器差の測定に用いる分銅は、その誤差が表 1 の許容差の 1/3 を超えないものでなければならない。

注記 器差の測定に用いる分銅は、国家標準など SI 単位を実現している標準へのトレーサビリティを補償していることが望ましい。

(参考1—表4) 試験に使用した分銅

計量器	質量	材質及び形状
一般体重計	20 kg	ステンレス製枕型
	10 kg	ステンレス製枕型
	5 kg	ステンレス製枕型
	2 kg	ステンレス製円盤型
	1 kg	ステンレス製円盤型
調理用はかり	500 g	ステンレス製円盤型
	200 g	ステンレス製円盤型
	100 g	ステンレス製円盤型
	50 g	ステンレス製円盤型
	20 g	ステンレス製円盤型
	5 g	ステンレス製円筒型

産総研が保管する国家標準にトレーサブルな参照標準分銅によって F1 クラスと同等に調整し、校正を行った分銅である。

- b) 測定台** 家庭用はかりを置く測定台は、水平からの傾きが 0.5 度以下の定盤又は堅ろうな台とする。

6.1.3 荷重の負荷方法

分銅を用いて荷重を負荷するときは、次による。

- a)** 一般用体重計においては、載せ台部の中心に負荷する。ただし、補助板を使用して負荷する場合は、通常の体重測定において荷重が負荷される位置に、補助板を載せ台部の縁、表示装置などに掛からないように置き、その上に均等に負荷する。
- b)** 乳幼児用体重計及び調理用はかりにおいては、載せ台部の中心に負荷する。

6.2.1 器差試験

器差試験は、家庭用はかりを標準状態に 2 時間以上保持した後に、6.1.4 によって行う。

6.1.4 器差の測定方法

器差の測定方法は、次による。

- a)** 家庭用はかりを測定台に置き、水平を確保する。
- b)** ひょう量に相当する荷重を 3 回繰り返し負荷する。
- c)** 載せ台を 2～3 回軽く押した後、指示を零点に設定する。ただし、零点指示がないものは必要ない。
- d)** 体重計においては、ひょう量の約 25%、約 50%、約 75% 及びひょう量付近の四つの荷重を、ひょう量付近まで順次負荷し、各荷重において安定した状態で計量値を読み取る。
調理用はかりにおいては、ひょう量の約 25%、約 50%、約 75% 及びひょう量付近の四つの荷重を、ひょう量付近まで順次負荷し、その後、順次負荷を減じて、各質量において安定した状態で計量値を読み取る。
ただし、表示固定機能のある家庭用はかりにおいては、ひょう量の約 25%、約 50%、約 75% 及びひょう量付近の四つの荷重を、それぞれ負荷し、各荷重において安定した状態で計量値を読み取る。
- e)** **c)** 及び **d)** を 5 回繰り返し、それぞれの計量値の平均値を計量値とし、器差を求める。器差を求めるときに必要となる真の値は、分銅に表記又は校正証明書に表記される質量とする。

6.2.2 零復帰度試験

零復帰度試験は、載せ台部に荷重を負荷していない状態の計量値と、その後、ひょう量に相当する荷重を負荷し、直ちに載せ台部からすべての荷重を取り除いた状態の計量値との変化を調べる。

ただし、零点を表示しない家庭用はかりにおいては、この試験を省略することができる。

(2) 表示

①丸正マーク等表示の方法の基準への適合状況

施行規則第 22 条（表示の方法）の丸正マーク等次の技術基準への適合状況を製品を目視等によって確認した。

(表示の方法)

第 22 条 法第 54 条第 1 項の表示は、次の各号に定めるところにより、付さなければならない。

- 一 表示の方法は、刻印、印刷又ははり付けによるものとする。
- 二 表示の形状は、次のとおりとする。



- 三 表示の大きさは、直径8ミリメートル以上とする。
- 四 表示を付す家庭用特定計量器の部分は、家庭用特定計量器の見やすい箇所とする。

②施行規則の製品、個装箱及び取扱説明書の表示基準への適合状況

施行規則第 20 条 (JIS B7613 9. 表示) の全項目の適合状況を製品の目視によって確認した。表示の技術基準は次のとおり。

9 表示

9.1 製品の表示

家庭用はかりには、見やすい箇所に誤字及び脱字がなく、また、容易に消えない方法で、次の事項を表示する。

なお、分離形の場合は載せ台部に表示する。ただし、載せ台部に加えて載せ台部以外の部分に表示してもよい。

- a) 製造事業者名若しくはその略号又は輸入事業者名若しくはその略号
- b) 製品の名称及び型式。ただし、製品の形状から家庭用はかりの種類が明らかに分かる場合は、製品の名称の表示を省略することができる。
- c) 製造番号 (器物番号を含む。)
- d) ひょう量及び目量
- e) 測定範囲の下限が零以外の場合は、その値
- g) 作動に電源を必要とするものは、定格電圧及び／又は電池の種類及び個数

9.2 個装箱の表示

1 台ごとの個装箱には、次の事項を表示する。

- a) 製造事業者名若しくはその略号、輸入事業者名若しくはその略号又は販売事業者名若しくはその略号
- b) 製品の名称及び型式。ただし、製品の形状から家庭用はかりの種類が明らかに分かる場合は、製品の名称の表示を省略することができる。
- c) ひょう量及び目量
- d) 測定範囲の下限が零以外である場合は、その値

9.3 取扱説明書の表示

取扱説明書には、見やすい文字、かつ、分かりやすい表現を使用して、次の事項を表示する。

- a) 製造事業者名、輸入事業者名又は販売事業者名及び住所
- b) 製品の名称及び型式
- c) 仕様
- d) 主要部の名称及び機能
- e) 附属品¹⁾がある場合は、その名称及び数量。
注¹⁾分離形の場合は、家庭用はかりとして使用する場合に必要とする附属装置及び／又は家庭用はかりの作動に必要なソフトウェア。
- f) 使用方法²⁾、使用上の安全注意事項、保管上の注意事項、性能及び性能維持に関する事項
注²⁾取引又は証明に使用できないことなどの使用上の注意を含む
- g) 修理などに関する事項
- h) 消費者相談窓口に関する事項

【参考2】市場調査結果

製品を試買するにあたって、平成28年7～8月にこの事業の委託先である(株)タイム・エージェンツにおいて実店舗とネット販売との比較、地域性等の市場調査を行うために、製品の種類、価格等を訪問、電話及びインターネット検索によって実施した。その結果は次のとおり。

1. 調査概要

(1) 実店舗調査

調査対象地域：北海道／東北圏、関東圏、中部圏、近畿圏、九州圏

店舗分類：家電量販店、総合スーパー、ホームセンター、百貨店、ドラッグストア

調査方法：調査対象地域ごとに店舗分類の各店舗が含まれるよう選定し、全50店舗訪問調査した。

(2) インターネット販売（以下「ネット販売」という。）調査

調査対象計量器についてネット販売を行っている43店舗を抽出し、調査した。

2. 指定製造事業者(血圧計、体温計)

(1) 調査した型式数と計量器の生産国

今回の市場調査で調査した型式数とその生産国を（参考2－表1）に示す。

市場に販売されている計量器は、血圧計（約64%）、抵抗体温計（約74%）ともに中国製が多くなっている。販売価格の平均値をみると、日本製は中国製より、血圧計が約4,000円、抵抗体温計が約2,500円高くなっている。また、血圧計はインドネシア製、マレーシア製の計量器の取扱いが確認された。なお、販売価格は購入した金額のうち消費税、送料、振込・代引手数料を除いた価格としている。

（参考2－表1）調査した型式数と計量器の生産国

比較項目	総数	日本製	中国製	インドネシア製	マレーシア製
調査を行った型式数	151 72	17 7	97 53	9 -	1 -
販売最高価格（税抜）	28,381円 9,980円	19,019円 8,381円	28,381円 8,383円	13,800円 -	19,800円 -
販売平均価格（税抜）	7,637円 2,053円	10,950円 4,164円	6,956円 1,861円	7,791円 -	14,948円 -

注1) 上段が血圧計、下段が体温計

注2) 総数には生産国が不明の製品を含む。

(2) 実店舗とインターネット店舗との比較

①販売価格の比較

一店舗当たりの販売製品種類と販売価格について、実店舗・インターネット上の店舗の比較の結果を（参考2－表2）に示す。

（参考2－表2）販売製品種類と販売価格とインターネット上の店舗の比較

比較項目	全店舗	実店舗	インターネット上の店舗
販売が確認できた店舗数	75	39	36
	72	41	31
一店舗当たり販売製品種類の最大数	58	58	57
	34	34	34
一店舗当たり販売製品種類の平均数	16.5	16.5	16.6
	9.8	8.5	11.5
販売最高価格（税抜）	28,381円	27,800円	28,381円
	9,980円	8,381円	9,980円
販売最低価格（税抜）	1,371円	1,834円	1,371円
	361円	375円	361円
販売平均価格（税抜）	7,637円	7,724円	7,543円
	2,053円	1,953円	2,149円

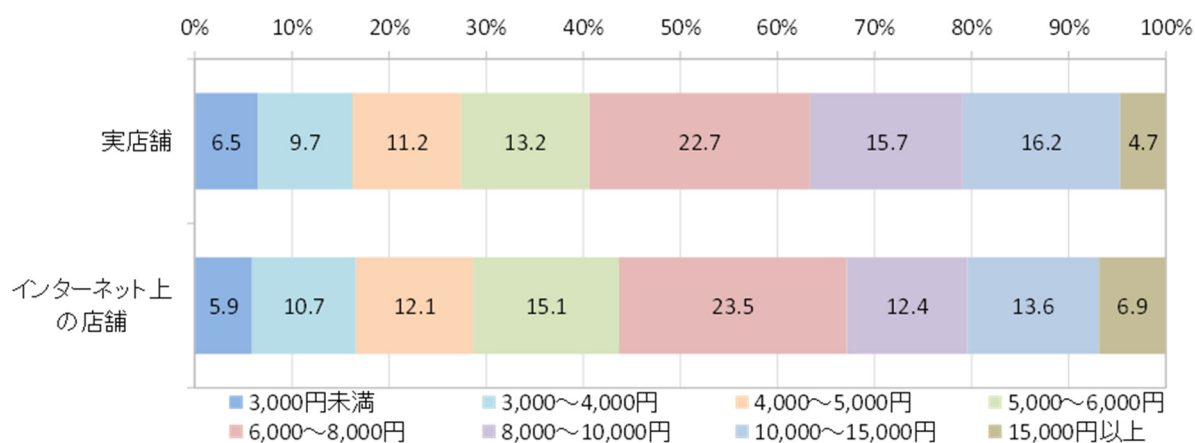
注）上段が血圧計、下段が体温計

②販売価格帯別の型式数構成比

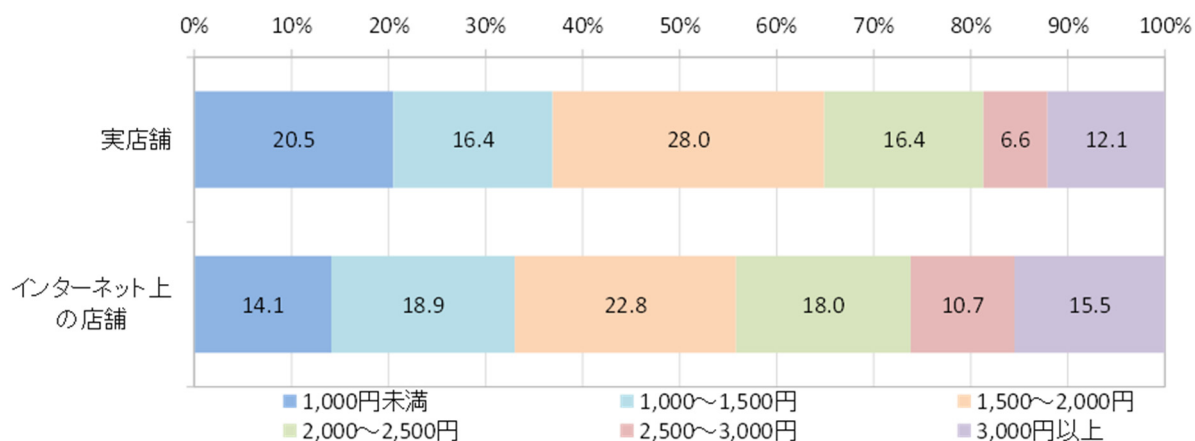
血圧計では、販売種類及び販売価格には大きな差がみられないが、販売価格平均値はインターネット上の店舗の方がやや安くなっている。家電量販店では40種類以上の型式が陳列されている店舗もあった。

抵抗体温計では、一店舗当たり販売製品種類平均値はインターネット上の店舗の方が高くなっている。販売価格平均値は実店舗の方が安くなっている。インターネット上の店舗では約1万円の高価な商品が確認されたことが平均値に影響していることもあるが、今回の調査で確認されたのはメモリ機能付きの婦人用体温計であった。

（参考2－図1）実店舗とインターネット上の店舗の販売価格帯別型式数構成比（血圧計）



(参考2-図1) 実店舗とインターネット上の店舗の販売価格帯別型式数構成比 (抵抗体温計)



(3) 地域別の比較

実店舗における地域別の比較調査結果を(参考2-表3)に示す。

血圧計では、一店舗当たり販売製品種類平均値は北海道／東北圏が21.6種類と最も多くなっている。販売価格平均値は九州圏が8,407円と最も高くなっており、その他の地域は7,000円台となっている。

抵抗体温計では、一店舗当たり販売製品種類平均値は北海道／東北圏が13.8種類と最も多くなっている。販売価格平均値は中部圏が2,243円と最も高く、次いで近畿圏が2,000円となっており、北海道／東北圏、首都圏、近畿圏は1,000円台となっている。

(参考2-表3) 実店舗地域別の比較

比較項目	北海道 ／東北圏	首都圏	中部圏	近畿圏	九州圏
販売が確認できた店舗	5	12	7	9	6
	5	12	7	10	7
一店舗当たりの型式数平均値	21.6	15.3	11.6	19.1	16.3
	13.8	6.0	7.9	9.6	7.9
最高価格 (税抜)	16,950円	27,800円	19,000円	18,800円	20,742円
	6,980円	8,381円	6,780円	7,980円	6,780円
最低価格 (税抜)	2,480円	2,362円	1,834円	2,065円	2,350円
	475円	475円	680円	375円	498円
平均価格 (税抜)	7,394円	7,727円	7,570円	7,612円	8,407円
	1,925円	1,756円	2,243円	2,000円	1,876円

注) 上段が血圧計、下段が体温計

(4) 店舗種類別の比較

実店舗における店舗種類別の比較調査結果を(参考2-表4)に示す。

販売が確認できた店舗では血圧計、体温計ともに圧倒的に家電量販店が多く、ドラッグストア、ホームセンターとなっている。一店舗当たりの型式数の平均値も、血圧計、体温計ともに圧倒的に家電量販店が多く、平均型式数が血圧計30.5型式、抵抗体温計13.8型式である。

価格帯は、家電量販店及び百貨店において、最高価格と最低価格の幅が大きく、平均価格及び最低価格からは、百貨店の方がより高価格帯の品揃えを行っている傾向が伺える。また、平均価格からはホームセンターやディスカウントストアで他よりも安い傾向にあることが判明した。

(参考2－表4) 実店舗の店舗種別の比較

比較項目	家電量販店	総合 スーパー	百貨店	ホーム センター	ドラッグ ストア
販売が確認できた 店舗数	15 14	1 4	5 4	9 9	9 10
一店舗当たりの型 式数平均	30.5 13.8	5.0 7.0	6.2 2.8	7.2 3.9	9.3 8.0
最高価格（税抜）	27,800 円 8,381 円	8,077 円 2,839 円	19,000 円 2,598 円	15,800 円 2,380 円	16,950 円 6,480 円
最低価格（税抜）	2,065 円 375 円	3,980 円 475 円	3,790 円 743 円	1,834 円 474 円	4,080 円 580 円
平均価格（税抜）	7,646 円 2,083 円	5,343 円 1,622 円	10,846 円 1,564 円	6,606 円 1,396 円	8,002 円 2,054 円

注) 上段が血圧計、下段が体温計

(5) 性能からみた比較

血圧計の上限圧力と該当型式数及び平均価格の調査結果を（参考2－表5）に示す。型式数が多いのは280mmHg、299mmHgであり、これらの性能で約9割を占めている。

販売価格平均値は上限圧力299mmHgの方が280mmHgより高くなっている。330mmHgの製品は腕挿入式の高価な血圧計2型式を確認している。

(参考2－表5) 血圧計の上限からみた型式数と平均価格

上限圧力	該当台数	販売価格平均値 (税抜)
280mmHg	489	5,458円
299mmHg	622	9,465円
300mmHg	105	6,016円
330mmHg	20	12,632円
不明	3	7,134円
合計	1,239	7,637円

抵抗体温計の目量と該当型式数及び平均価格の調査結果を（参考2－表6）に示す。目量0.01℃は、婦人用体温計であり、平均価格としては、一般体温計の2倍程度である。

(参考2-表6) 抵抗体温計の目量からみた型式数と平均価格

目量	該当台数	販売価格平均値 (税抜)
0.01℃	190	2,930円
0.1℃	430	1,604円
不明	82	2,370円
合計	702	2,053円

(6) 試買品として購入した製品について

購入にあたって、各型式とも購入する3台は、店舗が重複しないことを原則としており、今回、この原則にしたがって購入することができた。

購入した製品の価格帯は(参考2-表7)のとおりである。

血圧計は、最高価格及び平均価格からは上腕式の方が高かった。体温計の価格は、性能が付加又は精度が要求される順に概ね高くなる傾向にある。すなわち、普通式(実測)、普通式(予測)、婦人用(実測式)、婦人用(予測式)の順である。

なお、今回不適合の疑いのあった型式は、上腕式の血圧計におけるネット販売の1型式のみだったことから、今回の調査結果から品質と販売形式や性能の関係を評価することは困難である。

(参考2-表7) 試買品として購入した製品の価格帯

	血圧計			抵抗体温計				
	手首式	上腕式	全体	普通用 実測式	普通用 予測式	婦人用 実測式	婦人用 予測式	全体
最高価格 (税抜)(円)	12,800	13,800	13,800	999	5,834	1,200	4,480	5,834
最低価格 (税抜)(円)	1,977	2,490	1,977	361	998	1,067	1,761	361
平均価格 (税抜)(円)	4,717	7,241	6,232	707	2,453	1,116	3,004	2,161

3. 家庭用特定計量器(一般用体重計、調理用はかり)

(1) 調査した型式数と計量器の生産国

今回の市場調査で調査した型式数とその生産国を(参考2-表8)に示す。

市場で販売されている計量器は、一般用体重計が約7割、調理用はかりが約8割と中国製が多くなっている。販売価格の平均値をみると、日本製は中国製より、一般用体重計が約8,000円、調理用はかりが約2,500円高くなっている。また、韓国製の調理用はかりは防塵・防水仕様の高価な製品が確認された。なお、販売価格は購入した金額のうち消費税、送料、振込・代引手数料を除いた価格としている。

(参考2-表8) 生産国別価格

調査項目	総数	日本製	中国製	韓国製
調査した型式数	274	41	199	—
	230	15	187	4
販売価格最大値 (税抜)	30,000円	30,000円	21,065円	—
	15,678円	15,000円	14,775円	15,678円
販売価格平均値 (税抜)	6,016円	12,834円	4,582円	—
	2,600円	4,965円	2,413円	14,147円

注1) 上段が一般用体重計、下段が調理用はかり

注2) 総数には生産国が不明のものを含む。

(2) 実店舗とインターネット店舗との比較

①販売価格の比較

一店舗当たりの販売製品種類と販売価格について、実店舗・インターネット上の店舗の比較の結果を(参考2-表9)に示す。

一店舗当たり販売製品種類は、一般用体重計、調理用はかりともにインターネット上の店舗の方が多く、平均値をみると約2倍多くなっている。販売価格最大値及び平均値においてもインターネット上の店舗の方が高くなっている。

このことからインターネット上の店舗は、実際に商品や在庫を置くことなく販売可能な形態であるため、幅広い種類の商品を揃えていることが伺える。

(参考2-表9) 実店舗とインターネット店舗との販売価格の比較

調査項目	全店舗	実店舗	インターネット店舗
販売が確認できた店舗数	81	39	42
	71	36	35
一店舗当たり販売型式数最大値	73	42	73
	63	33	63
一店舗当たり販売型式数平均値	16.4	10.1	22.4
	12.7	7.6	17.9
販売最高価格(税抜)	30,000円	24,800円	30,000円
	15,678円	14,800円	15,678円
販売最低価格(税抜)	990円	990円	1,004円
	739円	739円	806円
販売平均価格(税抜)	6,016円	5,693円	6,152円
	2,600円	2,503円	2,642円

注) 上段が一般用体重計、下段が調理用はかり

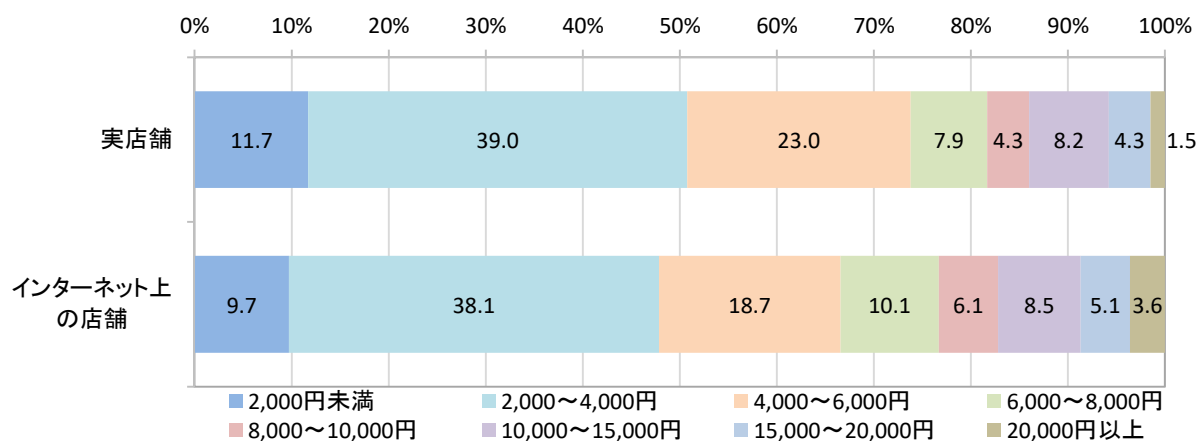
②販売価格帯別の型式数構成比

販売価格帯別の取扱型式数の構成比を(参考2-図3)に示す。一般用体重計では、インターネット上の店舗の方が6,000円以上の割合が高くなっており、取扱いのある商品の販売価格帯が広いことが伺える。

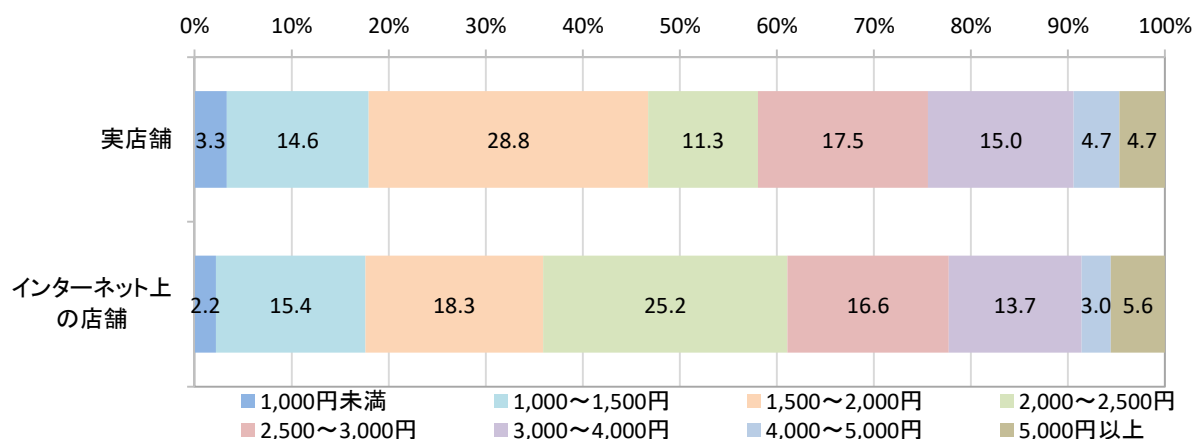
調理用はかりでは、1,500～2,000円の割合は実店舗の方が高くなっており、2,000～2,500円

の割合はインターネット上の店舗の方が高くなっているが、その他の価格帯に大きな差はみられない。一般用体重計と比較し、低下価格帯の商品は少なく、1,500円から4,000円までの価格帯が充実している。実店舗では1,500～2,000円、インターネット上の店舗では2,000～2,500円の取扱量が多いなどの差があるものの、幅広い価格帯の商品が販売されていることが伺える。

(参考2-図3) 実店舗とインターネット上の店舗の販売価格帯別型式数構成比（一般体重計）



(参考2-図4) 実店舗とインターネット上の店舗の販売価格帯別型式数構成比（調理用はかり）



(3) 地域別の比較

実店舗における地域別の比較調査結果を（参考2-表10）に示す。

一般用体重計では、一店舗当たり販売製品種類平均値は首都圏が13.2種類と最も高くなっている。販売価格平均値は近畿圏が6,165円と最も高くなっており、北海道／東北圏、首都圏、九州圏は5,000円台、中部圏は4,000円台となっている。

調理用はかりでは、一店舗当たり販売製品種類平均値は「近畿圏」が10.3種類と最も高くなっている。販売価格平均値は九州圏が2,936円と最も高くなっており、全地域とも2,000円台となっている。

また、一般用体重計、調理用はかりともに首都圏、近畿圏において一店舗当たり販売製品種類平均値が高く、幅広い種類の商品が取り揃えられていることが伺える。

(参考2－表10) 実店舗地域別比較

調査項目	北海道／ 東北圏	首都圏	中部圏	近畿圏	九州圏
販売が確認できた 店舗数	5 7	10 12	8 5	8 7	8 5
一店舗当たり 販売型式数最大値	26 25	41 23	13 9	42 33	18 9
一店舗当たり販売型式 数平均値	11.6 6.9	13.2 7.6	5.5 6.0	10.8 10.3	9.0 6.6
販売最高価格（税抜）	24,800円 5,400円	24,800円 14,800円	13,704円 4,612円	24,800円 8,084円	23,800円 5,000円
販売最低価格（税抜）	1,260円 952円	990円 739円	1,834円 924円	1,075円 760円	1,886円 1,000円
販売平均価格（税抜）	5,620円 2,284円	5,852円 2,556円	4,627円 2,183円	6,165円 2,518円	5,547円 2,936円

注) 上段が一般体重計、下段が調理用はかり

(4) 店舗種類別の比較

実店舗における店舗種類別比較調査結果を（参考2－表11）に示す。

①販売製品種類と販売価格

一店舗当たり販売型式数の平均値及び最大値からは、体重計、調理用はかりともに家電量販店が最も多くなっており、それ以外ではあまり有意な差はみられない。

価格帯は、最高価格と最低価格の差からは、体重計、調理用はかりともに家電量販店が大きい傾向にあり、調理用はかりでは、ホームセンターの方が家電量販店よりも大きな価格差となっている。こうしたことから、家電量販店では、体重計及び調理用はかりのいずれも型式及び価格帯ともに幅広い商品を揃え、調理用はかりは、ホームセンターでも価格帯の幅広い商品を揃えていることが伺える。また、最低価格は、いずれも百貨店が最も高く、値引きをあまり行わない傾向が伺える。

（参考2－表11）実店舗の店舗種類別の比較

調査項目	家電 量販店	総合 スーパー	百貨店	ホーム センター	ドラッグ ストア
販売が確認できた店舗数	15	4	3	11	6
	15	4	7	10	-
一店舗当たり販売型式数	42	7	6	16	5
最大値	33	9	8	9	-
一店舗当たり販売型式数	17.6	5.0	4.7	7.0	2.8
平均値	10.2	6.0	4.9	6.3	-
販売最高価格（税抜）	24,800円	9,000円	13,200円	15,800円	13,000円
	8,084円	3,800円	6,000円	14,800円	- 円
販売最低価格（税抜）	1,075円	1,880円	3,121円	990円	1,886円
	1,000円	1,280円	1,186円	739円	- 円
販売平均価格（税抜）	6,123円	3,971円	6,193円	4,862円	4,392円
	2,285円	2,344円	3,739円	2,429円	- 円

注）上段が一般体重計、下段が調理用はかり

②販売価格帯別の取扱型式

店舗の種類ごとの販売価格帯別型式数構成比を（参考2－図4）に示す。

販売価格帯の割合をみると、体重計では4千円未満の割合はホームセンターが最も高く、次いで総合スーパーが高くなっている。また、これらの店舗において、15,000円以上の高価格帯の製品は確認できなかった。

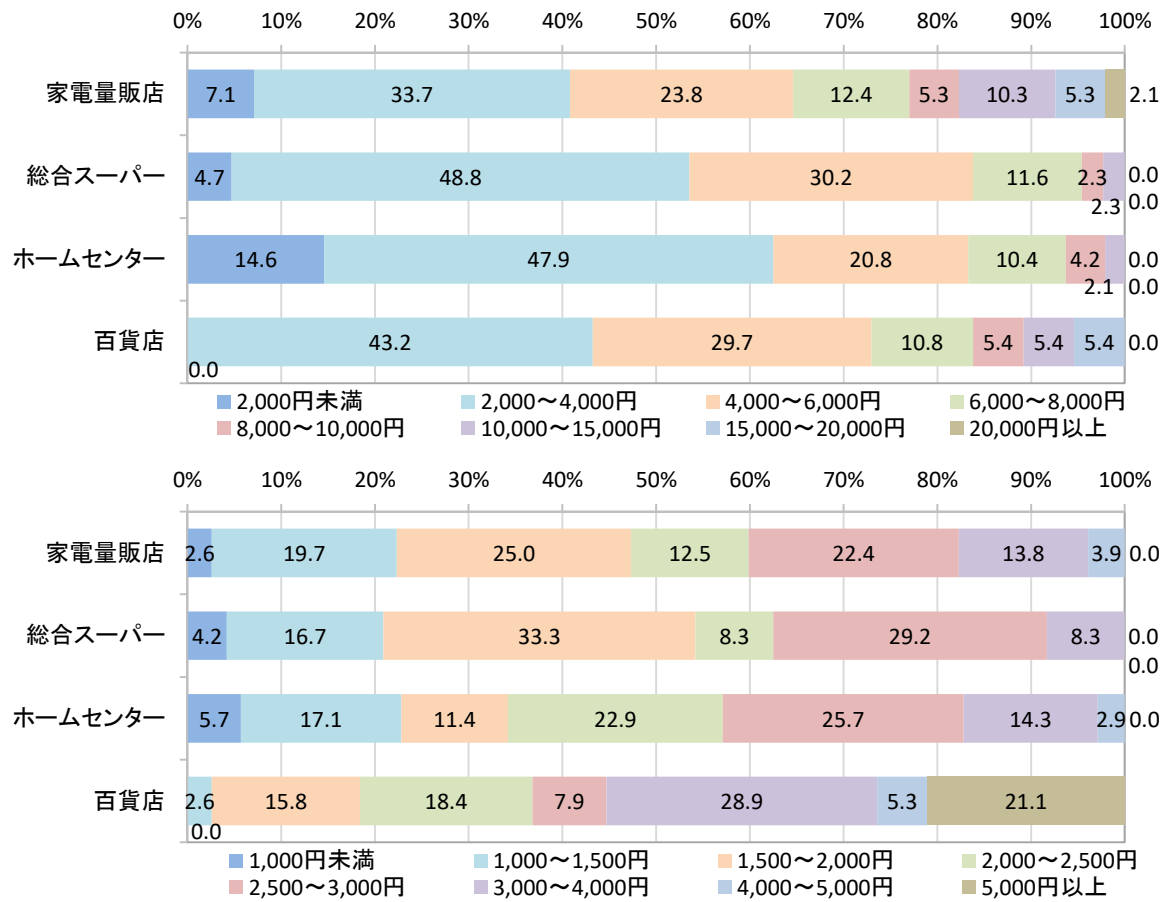
調理用はかりでは2千円未満の割合は総合スーパーが最も高くなっており、4千円以上の高価格帯の製品は確認できなかった。こうしたことから、ホームセンターや総合スーパーでは、低価格帯の商品を揃えていることが伺える。

家電量販店は体重計、調理用はかりともに他に比べ、様々な価格帯を揃えていることが伺える。また、ホームセンターの調理用はかりも同様の傾向が伺える。

百貨店は、体重計、調理用はかりともに低価格帯が極端に少ないことから値引きを行わず、高価格帯の商品が多いことから、高精度、多機能商品の品揃えが多いことが伺える。

(参考2-図4) 店舗の種類ごとの販売価格帯別型式数構成比

上図：体重計 下図：調理用はかり



(5) 性能からみた比較

① 一般用体重計

①－1 ひょう量と販売価格

ひょう量からみた該当台数及び平均価格の関係の調査結果を（参考2－表12）に示す。

市場で流通している製品の割合は、ひょう量150kgが最も高くなっており、主流であることが伺える。

販売価格平均値はひょう量が大きくなるほど高くなる傾向がある。ひょう量180kgでは、体組成測定の高精度さを売りにしている高価な体重計が多く、多くの店舗で確認されたことが、調査結果に影響している。

（参考2－表12）一般用体重計のひょう量からみた台数と平均価格

ひょう量	該当台数 (台)	平均価格 (税抜)
100kg	10	2,171 円
130kg	3	1,478 円
135kg	207	6,458 円
136kg	124	5,768 円
138kg	1	3,658 円
150kg	907	5,221 円
160kg	6	7,195 円
180kg	55	18,458 円
200kg	13	6,430 円
不明	5	9,624 円
合計	1,331	6,016 円

①－2 目量と販売価格

目量からみた該当台数及び平均価格の関係の調査結果を（参考2－表13）に示す。

市場で流通している製品の割合は、目量100gと目量50gを合わせて9割を超えており、目量50g～100gの型式が一般的に流通している。

販売価格平均値は目量が小さくなるほど高くなる傾向があり、目量50gでは8,000円を超えている。

一方、流通の多い目量100gは5,000円台となっており、精度に比例して販売価格が高くなると考えられる。

（参考2－表13）一般用体重計の目量からみた台数と平均価格

目量	該当台数 (台)	平均価格 (税抜)
50g	376	8,196 円
100g	910	5,212 円
200g	39	3,417 円
不明	6	8,382 円
合計	1,331	6,016 円

注) 多目量の計量器は、最も小さい目量でカウントした。

①－３ 付加機能と販売価格

付加機能と該当型式数及び平均価格の調査結果を（参考2－表14）に示す。ここで、付加機能は、地域設定機能（使用地域を設定することによって、重力の影響を補正する機能）、体組成機能（体脂肪率、BMI、内臓脂肪、筋肉量、基礎代謝等の測定できる機能）、通信機能（Wi-fi、Bluetooth等により、外部機器と通信することによって使用用途を拡張できる機能。）、メモリ機能（個人の身長、年齢等の情報を登録できる機能）、音声機能の5つの機能について調査した。

地域設定機能、体組成計機能、メモリ機能を持つ物が、市場に多く流通している。型式の半数以上がいずれかの付加機能を有すると考えられる。特に体組成計は多くの製品が有しており、体重以外にも体脂肪率や基礎代謝量、筋肉量など身体の健康やトレーニングの効果をみるという消費者のニーズが流通量に影響を与えていると伺える。

販売価格平均値をみると、地域設定、体組成計、メモリ機能は販売価格平均値が7,000円台となっている。通信機能は13,000円を超えており、スマートフォンのアプリと連携するものが多く確認できた。アプリとの連携は、過去の計量値を確認すること以外に、ゲームとも連携するものなどが確認されており、今後は通信機能を有することで差別化を狙った商品が多く流通するのではないかと推察される。

また、付加機能なしの製品は販売価格平均値が2,000円台となっており、付加機能が価格に大きく影響を与えていることが伺える。

（参考2－表14）一般用体重計の付加機能からみた台数と平均価格

付加機能	該当台数 (台)	平均価格 (税抜)
地域設定	837	7,414 円
体組成計	959	7,309 円
通信	133	13,295 円
メモリ	939	7,320 円
音声	30	10,011 円
付加機能なし	242	2,775 円
合計	1,331	6,016 円

注) 複数の付加機能をもつ型式は、付加機能ごとに1台とカウントしている。

② 調理用はかり

②－１ ひょう量と販売価格

ひょう量からみた該当台数及び平均価格の関係の調査結果を（参考2－表15）に示す。

ひょう量1.0kg～3.0kgの範囲ではひょう量が大きくなるほど高くなる傾向があり、3.0kgでは3,000円台となっている。

なお、今回調査においては、調理に使用することを考慮していない計量器（カタログやインターネット上の情報による）は、市場調査の対象から除外している。

(参考2―表15) 調理用はかりのひょう量からみた台数と平均価格

ひょう量	該当台数 (台)	平均価格 (税抜)
120g	2	2,268 円
200g	1	4,241 円
300g	4	4,424 円
1.0kg	165	1,769 円
2.0kg	549	2,664 円
3.0kg	180	3,123 円
不明	1	2,434 円
合計	902	2,600 円

②－2 目量と販売価格

目量と台数及び平均価格の調査結果を（参考2―表16）に示す。

目量1gが主流であることが伺える。目量0.1gや0.5gは後述の目量切替えを有する製品が多く、目量1gに比べ販売価格平均値が若干高くなっている。

(参考2―表16) 調理用はかりの目量からみた台数と平均価格

目量	該当台数 (台)	平均価格 (税抜)
0.1g	220	3,151 円
0.5g	128	2,463 円
1g	549	2,407 円
2g	1	5,870 円
不明	4	2,346 円
合計	902	2,600 円

注) 多目量のはかりは、最も小さい目量でカウントした。

②－3 付加機能と販売価格

付加機能と該当台数及び平均価格の調査結果を（参考 2―表 17）に示す。ここで、付加機能は、地域設定、g/ml 切替（質量の計量において、グラム（g）とミリリットル（ml）の表示が切替え可能）、タイマー（あらかじめ設定した時間にアラームを鳴らすことによって、時間経過を伝える）、微量切替（通常の日量に加え、小さい目量での計量に切替え可能）の4つの機能について調査した。

地域設定を有しているものは、約5割以上を占めており、より正確に計量したいというニーズに対応しているものと考えられ、微量目量だけでなく、標準的な仕様である目量1gにおいてもこれらの機能が進展しつつある。なお、g/ml切替機能を有する製品の割合は13.5%となっており、その販売価格平均値はその他の機能を有する製品に比べ若干高くなっている。g/ml切替以外にも米などのカロリーを表示する製品も多く確認されている。今後、健康管理やダイエットなどの消費者のニーズによって、計量以外を表示する製品が多く流通するのではないかと考えられる。

微量切替機能を有する製品の割合は約2割となっている。菓子の調理では細かい計量が必要となってくるなど、生活において精度の高い計量が必要となる場面が、微量切替機能を有する製品を流通させるきっかけになっていると考えられる。

また、付加機能なしの製品は販売価格平均値が最も低くなっており、付加機能が価格に影響していることが伺える。

(参考2－表17) 調理用はかりの付加機能からみた台数と平均価格

付加機能	該当台数 (台)	平均価格 (税抜)
地域設定	504	2,703 円
g/ml 切替	122	3,408 円
タイマー	7	2,622 円
微量切替	162	3,311 円
付加機能なし	343	2,388 円
合計	902	2,600 円

(6) 試買品として購入した製品について

購入にあたって、各型式とも購入する3台は、店頭が重複しないことを原則としてしていたが、同一店舗又は同一系列店から購入した型式は体重計では3型式、調理用はかりでは7型式存在しており、特定の取引先のみに流通させていると思われる事業者も存在していることが伺える。購入した製品の価格帯は(参考2－表18)に示す。

体重計は、体重以外の機能がある製品が一般的となっており、今回、これらの機能がある製品が多数調査対象となり、また、1,000円以下の製品が対象とならなかったことから平均価格が5,000円を超える結果となった。また、平均価格は、安価な体重計が減少したため平成27年度調査の平均価格である5,455円よりも若干高くなっている。

調理用はかりは、9,000円台の製品が販売されていたことから、今回、調査対象とした。しかしながら、800円台から3,000円台の一般的な仕様を多く購入対象としたため、平成27年度調査の平均価格2,888円と比較し、ほとんど変動していない。

(参考2－表18) 試買品として購入した製品の価格帯

	体重計	調理用はかり
最高価格(税抜)(円)	24,241	9,066
最低価格(税抜)(円)	1,251	861
平均価格(税抜)(円)	5,842	2,542